

平成27年10月13日

阿蘇ジオパーク推進協議会 会長 阿蘇市長 佐藤義興 様
南阿蘇村長 長野敏也 様
高森町長 草村大成 様
熊本県知事 蒲島郁夫 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

4年毎の再審査で世界ジオパークを継続するために 立野ダム建設の中止を求める要請書

昨年の9月23日、阿蘇地域は世界ジオパークに認定されました。世界有数のカルデラ中央で中岳が噴煙を上げ、周りに多くの人々が暮らし、野焼きで守り続けた草原が広がる阿蘇は、まさに世界ジオパークにふさわしい場所です。

阿蘇ジオパークの重要なジオサイト（ジオパークの中の見どころ）の1つに、阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野峡谷が挙げられます。立野峡谷でカルデラが切れた原因は、峡谷を走っている断層や浸食によるものですが、これまでに何度か溶岩で埋まったことがあり、その時にはカルデラ内に湖が形成されました。

立野峡谷の右岸側に見られる、柱状節理（溶岩の冷却時にできた割れ目）が発達した立野溶岩には、溶岩と溶岩の間にいくつもの不連続面が見られ、阿蘇形成の歴史がここに凝縮されていることが非常によく分かります。対岸には国の天然記念物である北向谷原始林も見られます。他にも、数鹿流ケ滝、鮎返りの滝、白川黒川合流点等、重要なジオサイトがあります。立野峡谷の美しさと谷の深さ、自然のすばらしさには目を見張るものがあります。

ところが、この立野峡谷に、国土交通省は高さ90mもの立野ダムの建設を計画しています。立野ダム建設により健磐龍命が立野火口瀬を作ったという神話の里が破壊されます。多くの不連続面が見られる立野溶岩は、まさに立野ダム本体予定地にあたります。この貴重な地質遺産、自然遺産を、ダム建設で破壊してよいのでしょうか。さらには、立野ダムが建設されるとダム本体予定地から鮎返りの滝までの約3kmが水没してしまいます。

これまで阿蘇では、住民の皆さんと行政が一丸となって、地域の自然や人の営みを誇れるよう努力されています。それに対して、立野ダム建設は非常に水を差すことではないでしょうか。

さらに危惧しているのが、世界ジオパークは4年毎に再審査がある点です。ジオパークは、地質遺産を保全し、教育に生かし、ジオツーリズム（地質見学旅行）などによって、地域経済の持続的発展をはかるといえるものです。立野ダム建設で地質遺産を壊してしまえば、教育にも観光にも生かせず、ジオサイトとしての価値はなくなってしまいます。地質遺産を確実に保護することも、ジオパークの大きな目的です。

このまま立野ダムが出来たら、皆さんが苦勞して、時間と資金をつぎ込んで世界認定を勝ち取った「阿蘇世界ジオパーク」が、再審査であつという間に「取り消し」になる恐れが大きいと考えます。

平成24年7月の九州北部豪雨の時、白川で浸水被害を受けた箇所は、改修が済んでいない箇所ばかりでした。国土交通省が情報開示した白川の「流下能力算定表」によると、河川改修が完了した地点では白川の流下能力が大幅に向上し、立野ダムを建設する必要はないことが分かります。

立野ダムは洪水調節だけを「目的」としたダムですが、洪水時にはダム下部に開いた3つの穴（高さ5m×幅5m）が流木などでふさがり、洪水調節不能になるのは明らかです。熊本市など下流の安全を守るどころか、危険をもたらすダム計画です。世界ジオパークを守るために、立野ダム建設中止を事業者である国土交通省に求められることを要請します。

以上

【参考資料】



立野峡谷の紅葉。立野ダムができれば奥に見える第一白川橋梁がほぼ水没する。
写真左側の北向山原始林も同橋梁地点で60m近く水没する。2011年12月3日撮影



立野ダム本体予定地右岸の立野溶岩。溶岩と溶岩の間にいくつもの不連続面が見られ、
阿蘇形成の歴史がここに凝縮されていることが非常によく分かる。2012年10月7日撮影



白川黒川合流点。立野ダムができれば水没する。写真左側の北向山原始林の最も重要な水際の部分が水没する。2011年11月23日撮影

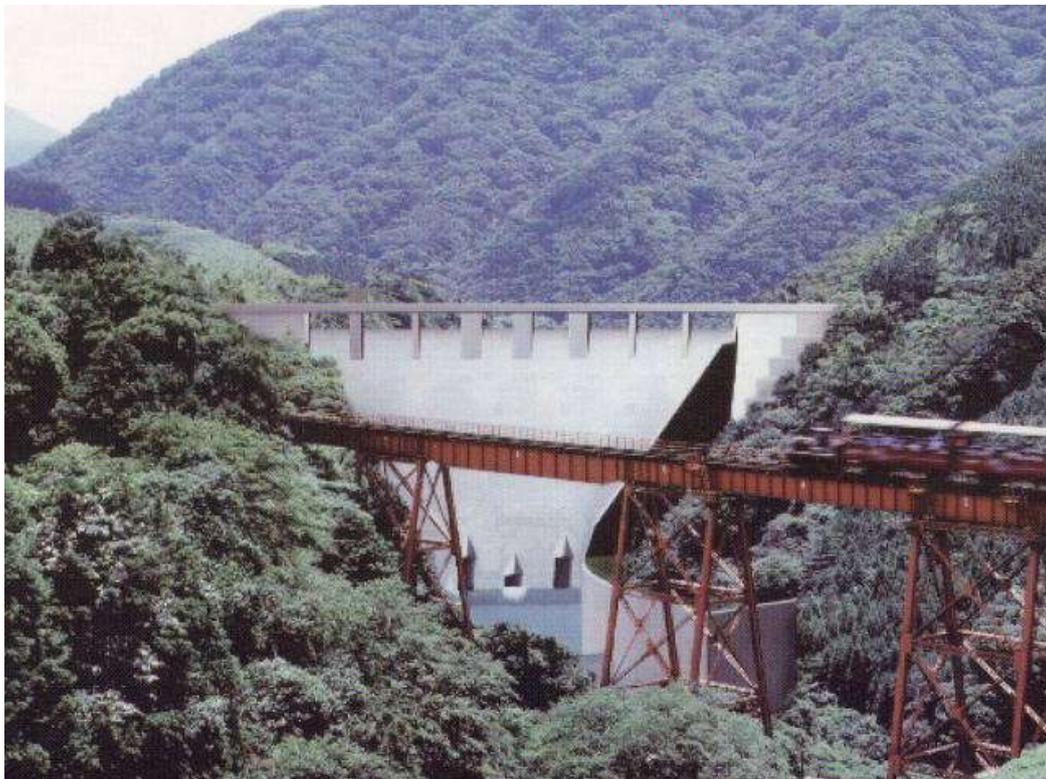


鮎返りの滝。立野ダムができればダム本体予定地から鮎返りの滝までの約3kmの立野峡谷が水没する。2012年11月23日撮影

4. 立野ダム建設事業の進捗状況①



立野ダム建設予定地の位置と水没予定地(青く塗りつぶしてある部分)国土交通省資料より



下流から見た高さ90mの立野ダム完成予想図。洪水時やダム完成後の試験湛水時には南阿蘇鉄道の線路の高さまで水没する。奥は北向谷原始林。国土交通省資料より

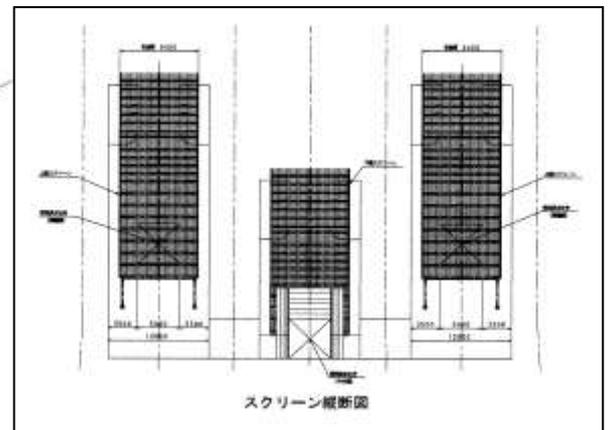
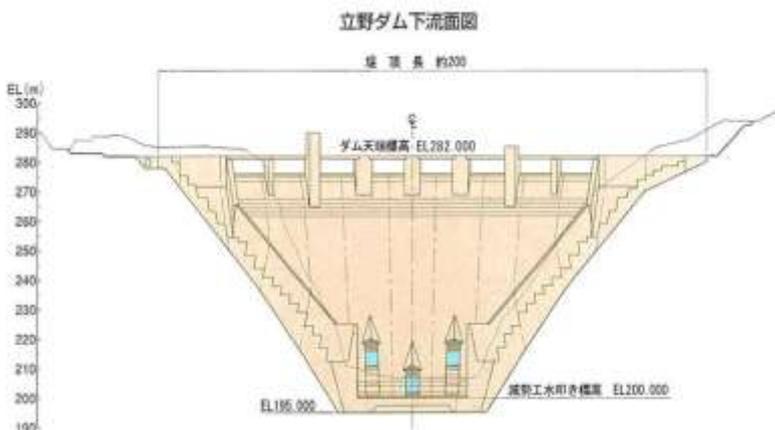
■洪水時、立野ダムは機能しません

ダムのゲート（水門）の幅は、40mと構造令で決められています。流木等でダムのゲートがふさがれる可能性があるからです。洪水調節専用の「穴あきダム」である立野ダムにはゲートがない代わりに、ダムの下部に3つの穴（高さ5m×幅5m）があいています。幅5mしかない穴が、洪水時に流木等でふさがれることは明らかです。穴がふさがると、立野ダムは洪水調節不能になります。洪水を貯め込むだけの危険な状態となり、ダムが満水になると、ダム上部の非常放水用の8つの大きな穴から洪水がそのまま流れ落ち、ダム下流の洪水流量はゼロから最大量に一気に上昇します。

国土交通省は流木対策として、立野ダムの穴の上流側をすき間20cmのスクリーンで覆うとしています。しかし、大量の流木や岩石等がひっきりなしに流れる洪水時の白川の状況を考えると、スクリーンはたちまち流木等でふさがってしまうと容易に想像できます。

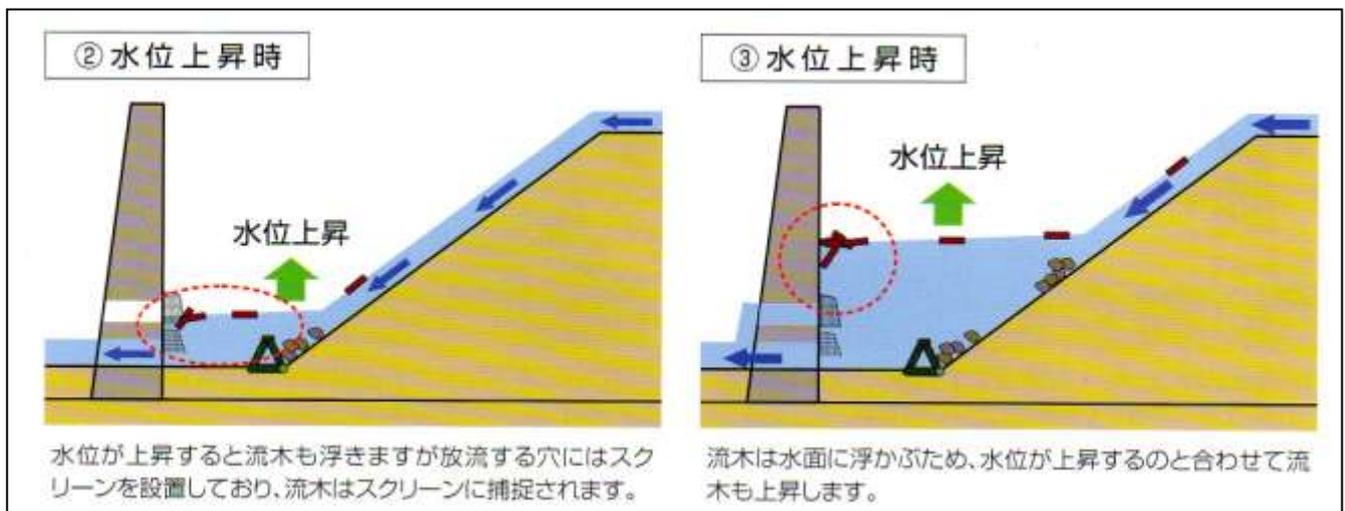
ところが国土交通省は、「スクリーンにはりついた流木は、ダムの水位が上昇すると浮き上がる」とホームページで主張しています。流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかです。国土交通省の主張は、あり得ないことです。

立野ダムの穴が流木等でふさがった状態で、ダムに水がたまってしまった場合、流木の撤去は不可能です。洪水時、立野ダムは機能しないどころか、大きな災害源となるのは明らかです。



ダム下部に3つの穴が開いている立野ダム。ダム上部にはダムが満水になった時に洪水をそのまま下流に流す非常放水用の大きな穴が8つ開いている

立野ダムの3つの穴(5m×5m)の上流側を覆うすき間20cmのスクリーン(国土交通省資料より)



「ダムの穴をふさぐ流木がダムの水位が上がると浮いてくる」と主張する国交省資料(ホームページより)